



Y ICHITOKU

川越市立特別支援学校 学校だより

令和8年2月12日発行 第10号

学校教育目標『ひとりだちする生徒』

TEL049-222-2753 Fax049-229-1231

それぞれの春に向けて 準備着々

校長 肥留間 智子

2月になりました。暦の上では「春」ですが、1月末頃から日本海側や東北、北海道地方では災害級の大雪となり、現地にお住まいの方々のご苦勞やご心配は大変なこととお察しいたします。一方で私たちが住んでいる太平洋側の関東地方では、乾燥が続き火事が起きたり水不足が心配されたりしています。思い起こせば、夏は体温以上の気温で熱中症が心配されたことも考えると、年々異常な気候が続いていることを実感します。

さて、本校の3学期は、令和8年度の入学選考を終え、1月末から2月上旬にかけて、1年生は特別日課で事業所見学などを行い、2年生は4回目の、3年生は7回目の産業現場等における実習に行きまして。

これまでも本校の「自慢」として話してきましたが、他校から「進路の市特」と言われるほど、本校の進路指導については「歴史」と「情報」と「ノウハウ」と「信頼」があります。昨年度と今年度で、本校に保管されている進路資料を整理してきました。これまで本校がお世話になっている事業所は約400社あり、地域や業種などで検索しやすいようにデータベース化しました。また、「3年間で7回の実習がある」という他校よりも回数が多い実習を行うということから、担任だけではなく学校全体で生徒の指導にあたることできるように、個々の生徒の「実習カルテ」づくりを行いました。「就労率」よりも「定着率」を大切に、学校教育目標「ひとりだちする生徒」の達成に向けて指導体制をさらに整えていきたいと思ひます。

現場実習前の事前学習では、「実習先」「事業内容」「仕事内容」「実習の目標」「実習に向けての一言」を生徒たちは考え、文章に書き暗記して皆の前で発表します。発表会では、服装、髪型などの身だしなみも整え、姿勢、声の大きさなどにも気をつけながら堂々とした態度で、実習に向けた意気込みを発表します。この発表会には、校長、教頭も招かれ、生徒たちが発表した後、講評や激励の言葉を送ります。この事前学習（事後学習も同じ）の発表会は、どの学年も会の初めから終わりまで、緊張した雰囲気の中で行われ、生徒たちの実習に対する真剣さを感じます。

現場実習は、「ひとりだち」に向けた学校の中だけでは学べない、大事な体験的な学習です。学校の中では上手にできることでも、実習先では「うまくできない」「どうしたらいいかわからない」ということにたくさん出合い、自分自身を正しく見つめる機会になります。つまり、学校では気づかない課題に気づくことができ、その後すぐに学校という守られた場所で練習をすることができます。本校では「進路指導」と「日常指導」をリンクさせ繰り返し指導し、「進路の市特」だからこその学びを大切にしていきたいと思ひます。

あと数か月後に3年生は、本校を卒業して社会人になり、1、2年生はひとつずつ学年が上がって新入生が入学してきます。それぞれの「春」を目指して、今年度のまとめをしていきたいと思ひます。今後も保護者の皆様と情報を共有し、生徒を支援、指導していきたいと思ひますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

